

能と狂言

鏡心会

TESSENKAI

定期公演

狂言

入間川

いるまがわ

能

小塩

おしお

野村 萬齋

観世鏡之丞

2026年4月10日(金)
午後6時開演(午後5時30分開場)
会場 観世能楽堂



鏡仙会定期公演〈4月〉

2026年4月10日(金)

午後6時開演

狂言 入間川

シテ 大名 野村 萬齋
 アド 太郎冠者 高野 和憲
 小アド 入間の某 深田 博治

〈休憩15分〉

能 小塩

前シテ 在原業平 観世鏡之丞
 ワキ 花見人 宝生 欣哉
 ワキツレ 同行者 御厨 誠吾
 アイ 里人 野村 裕基
 小鼓 一噌 隆之
 大鼓 成田 達志
 太鼓 國川 純
 地頭 小寺眞佐人
 片山九郎右衛門

入間川

訴訟のため長らく在京していた東国の大名が太郎冠者を連れて帰国する途中、大きな川に到る。大名は渡り瀬がわからず対岸の男に尋ねると、男はここは入間川で、在所も入間、自分も入間の某という名だと教え、浅瀬は上流の方だという。しかし大名は何を思ったかその場で川に入り、深みにはまってずぶ濡れに。大名は男が入間様(逆さ言葉)で話しているのだと早合点していて…。

小塩

桜の名所として名高い京都西郊の大原山。花見に来た一行は、桜の枝を頭に挿した華やかな様子の尉と出会う。花見の一行とともに花見を楽しむうち、尉は語り始める。「大原や小塩の山も今日こそは神代の事も思ひ出づらめ」という歌は、昔ここ大原野で二条の後の行幸があった際、供奉していた在原業平が詠んだもの。この歌にある「神代の事」とは、業平と後の契りのことなのだ。そう花見人に説き、尉は昔恋しいと嘆く。一行は風雅な心を持つ尉と花見に興じて酒に酔っていると、尉はいつの間にか姿を消す。

先ほどの尉は業平の霊かと一行が再会を待っていると、花見車に乗った業平が在りし日の姿で現れた。花咲き映える月下、業平は昔の恋を回顧し、花見人の夢の内に消えるのであった。

春宵の山々を背景に語られる淡い恋の物語。

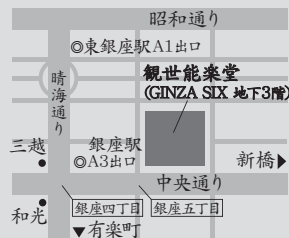
〈午後8時35分頃終演予定〉

◎より詳しい解説を鏡仙会ホームページにて順次公開しております。
 ◎観能前には是非ご覧下さい。
 ※携帯電話等、音や光の出る機器の電源は予めお切り下さい。
 ※無許可の写真撮影、録音、録画は固くお断り致します。
 ※客席内でのご飲食はご遠慮下さい。

会場

観世能楽堂(全席指定)

〈交通〉銀座駅(A3)徒歩2分
 東銀座駅(A1)徒歩3分
 有楽町駅(銀座出口)徒歩10分
 〒104-0061
 東京都中央区銀座6-10-1
 GINZA SIX 地下3階
 TEL 03-6274-6579



入場料

S席 7,000円
 A席 6,000円
 B席 5,000円
 C席 4,500円
 U25(25歳以下) 2,700円

賛助会員 年間指定席/年10回

S会員 68,000円 一般回数券
 A会員 59,000円 12,200円
 B会員 49,000円
 C会員 44,500円
 U25(25歳以下)回数券 10,000円

お問い合わせ・お申し込み・鏡仙会

電話 03-3401-22805(平日10~17時)
 ホームページ <http://www.tessen.org>
 予約受付開始: 2026年1月13日(火) WEB 10時、電話 13時
 ※お電話からは座席指定ができません。ウェブサイトよりお申込みください。

特別公演 鏡仙会100周年記念 予告 会場:宝生能楽堂

5月31日(日) 午後1時30分開演

能 木賊 観世鏡之丞
 狂言 柑子 野村 萬
 能 道成寺 観世 淳夫
 赤頭 無淵之崩
 五段之舞

鏡仙会定期公演〈6月〉予告 会場:観世能楽堂

6月12日(金) 午後6時開演

能 唐船 西村 高夫
 狂言 神鳴 山本泰太郎
 能 鉄輪 柴田 稔

写真「小塩」八世観世鏡之丞 撮影・吉越立雄